

－ 東日本大震災復興支援 －

チャペル・コンサート



2011年6月25日(土) 開演 13時30分

同志社大学 神学館礼拝堂

主催 同志社大学キリスト教文化センター

～ 演奏者プロフィール ～



今井 奈緒子

東京藝術大学、ドイツ国立フライブルク音楽大学卒。オルガンを河野和雄、秋元道雄、廣野嗣雄、ジグモンド・サットマーリに師事。1985年G. ベーム国際オルガンコンクール、1988年ブルージュ国際J. S. バッハ-C. Ph. E. バッハコンクール入賞。各地の教会やコンサートホールにおいてソロ活動を行うほか、経験豊かな通奏低音奏者としても、共演者から信頼を得ている。

ソロ CD に「シャイトのアラマンダ」「バッハ：クラヴィーア練習曲集第3部」(ALM)「スウェーデン7つのオルガン」(MUSICA REDIVIVA)、『バッハのコラールを歌う』(キリスト新聞社) 付録 CD など。バッハ・コレギウム・ジャパン創設時よりのメンバーとして、教会カンタータ全曲シリーズ他国内外のコンサート、CD 録音に参加している。

現在東北学院大学教養学部教授、大学オルガニスト、宗教音楽研究所所長。日本基督教団霊南坂教会、西片町教会オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

～ Programme ～

S. シャイト : 「主よ、み元に身を寄せ」によるトッカータ
Samuel Scheidt (1587-1654): Toccata super In te Domine speravi SSWV138

J. P. スヴェーリンク : リート変奏曲「緑の菩提樹の下で」
Jan Pieterszoon Sweelinck (1562-1621) :
Liedvariation “Onder een linde groen” SwWV325

A. ファン ノールト : 詩編 24 「地とそこに満ちるもの」 (全3節)
Antoni van Noordt (d.1675): Psalm 24

D. ブクステフーデ : コラール編曲「我らいま、聖霊を願い求む」
Dietrich Buxtehude (ca.1637-1707) :
Choralbearbeitung “Nun bitten wir den heiligen Geist” BuxWV208

M. ヴェックマン : コラール編曲「来たれ、聖霊、主なる神」 (全3節)
Matthias Weckmann (1621-74) :
Choralbearbeitung “Komm, heiliger Geist, Herre Gott”

Intermission

J. S. バッハ :
コラール「来たれ、聖霊」によるファンタジア
コラール・パルティータ「おお神よ、汝義なる神よ」 (全9節)
プレリュードとフーガ 変ホ長調
Johann Sebastian Bach (1685-1750) :
Fantasia super “Komm, Heiliger Geist” BWV651
Choralpartita “O Gott, du frommer Gott” BWV767
Praeludium et Fuga in Es BWV552/1,2

～ Programme Notes ～

ザームエル・シャイト 「主よ、み元に身を寄せ」によるトッカータ

シャイトがオルガニストを勤めたドイツ・ハレの教会の回廊には、聖書の言葉が、ドイツ語で刻まれています。宗教改革後初めてのことでした。「主よ、み元に身を寄せ」は詩編第 70 篇をテキストとしています。アムステルダムでスヴェーリンクに師事しています。

ヤン・ピエテルスゾーン・スヴェーリンク 「緑の菩提樹の下で」

アムステルダム市は、宗教改革後それまでのロマン・カトリックから改革派へと改宗しました。当時教会でのオルガンの使用は制限されていましたが、スヴェーリンクの即興演奏は市の名物となり、ドイツから派遣され彼の教えを受けた者たちは、いずれも北ドイツオルガン楽派の一翼を担う存在となったのでした。鍵盤楽器の為の作品では特に変奏曲に優れたものがあり、この曲はオルガンでもチェンバロでもよく演奏される親しみやすい曲です。

アントニ・ファン ノールト 詩編 24 「地とそこに満ちるもの」全 3 節

オランダの音楽家一族に生まれ、スヴェーリンクの孫弟子にあるとされる彼の作品はその成熟した手法によって、スヴェーリンクの伝統を継承したのはドイツの弟子たちばかりではなかったことを示しています。詩編 24 は詩編歌に基づく 10 作品のうち、最も親しまれています。

ディートリヒ・ブクステフーデ 「我らいま、聖霊を願い求む」

バッハに先立つこと約 50 年前のデンマーク領ヘルシンボー生まれ。1658 年に、北ドイツで最も重要なポストであったリューベック・聖マリア教会オルガニストとなり、40 年近くこの職にありました。大小の、優れたコラール編曲も魅力的です。

マティアス・ヴェックマン 「来たれ、聖霊、主なる神」

ラテン語の聖歌を起源とする「来たれ、聖霊、主なる神」は、宗教改革者マルティン・ルターによりドイツ語訳、旋律も改編されペンテコステの代表的コラールとなりました。ルターの編曲はグレゴリオ聖歌やドイツの民衆が親しんでいた歌曲を素材とし、リズムや旋律に工夫を施しその質をも高めたので、それらをもとにした優れたオルガン作品が生まれたのも、自明のことと言えましょう。ヴェックマンはドレスデンの宮廷礼拝堂聖歌隊でシュッツの薫陶を受け、のちに 1655 年ハンブルクの聖ヤコビ教会オルガニストとなりました。17 世紀後半の北ドイツで最も名高い建造家であった、A. シュニットガーのオルガンを擁するこの教会に鳴り響いたであろう、充実した作品です。

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

コラール「来たれ、聖霊」

ヴェックマンの作品と同じコラールを扱った作品です。バッハが若き日にヴァイマルで書きためたものを、ライプツィヒにおける晩年に、熟練の業により改訂・補筆したひとまとまりのコラール作品に含まれます。ペダル上で長い音価で伸ばされる定旋律に乗せて、上3声が模倣的に絡み合います。

コラール・パルティータ 「おお神よ、汝義なる神よ」

コラール・パルティータはコラールを主題に持つ変奏曲。バームやブクステフデの影響を受けていた若い頃の作品群とされ、変奏の数は、元のコラールの詩節数と同じくなるように工夫されています。

プレリュードとフーガ 変ホ長調

単独で演奏されることの多い作品ですが、この2曲はバッハが54歳にして初めてオルガン作品集として出版した『クラヴィーア練習曲集第3巻』の冒頭と最後に置かれています。ライプツィヒのカントル（楽長）に就任した1723年頃から手がけていた、クラヴィーア（鍵盤）音楽の分野で自分の作品を集成し世に出す仕事の一環であり（他には『フーガの技法』『音楽の捧げもの』などがあります）、その内容は全体の構成から細部に至るまで彼の信仰と英知そのものです。特にこの一対の作品は、あらゆる要素が三位一体の神を指し示していて、バッハからの力強いメッセージといえるでしょう。



本日、コンサート会場には募金箱を設置いたします。皆さまからお寄せいただきました義援金は、キリスト教学校教育同盟を通じて、被災地のキリスト教学校の復興支援に役立てられることとなっております。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。